

境港市観光協会



“妖怪のまち”を支える“観光協会”の観光まちづくり

境港市は広い世代に親しまれている「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげる氏の出身地。「妖怪」をモチーフとしてまちの魅力を全面に押し出した観光まちづくりが行われている。平成5年水木しげるロードがオープンし、近年ではNHK朝の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」放映といった追い風もあり、平成22年、23年には中国・四国地区の宮島や倉敷と同程度の300万人規模の入込客数を2年連続で達成した。こうした「妖怪のまち」の賑わいづくりを支えているのは境港市観光協会のアイデア、行動力があればこそなのである。

「私は民間出身で常に数字を意識していたので、数字が落ちたら、平静な気持ちではいられない」と境港市観光協会会長の榎田氏は言う。数字（＝入込客数）を落とさないために、ユニークなアイデアや企画を連発し、観光客に「飽きられない」工夫をする。こうした取り組みはマスコミからも注目され、結果的に広報してもらえる仕組みをつくりだしている。成功の裏には、民間企業で培った感覚と、斬新な発想による取り組みがある。



榎田 知身氏 (ますだともみ)

境港市観光協会会長。昭和16年広島県生まれ。大学卒業後、運輸会社に入社。定年を迎えた境港市で平成16年から現職と併せて、水木しげる記念館館長に就任(平成21年まで)。民間出身の感覚で境港の観光まちづくりに取り組む

取組主体 境港市観光協会 (<http://www.sakaiminato.net/>)

設立年 平成9年(1997年)

住所 鳥取県境港市竹内団地 255-3 電話 0859-47-3880 FAX 0859-47-3885

地域の課題

地域の魅力をどう打ち出していくか

「妖怪のまち」の賑わいを生み出す

ソリューション

→ 「妖怪のまち」として地域を活性化

→ 斬新な発想、企画の連発、メディアの活用

(地域の特徴)

「妖怪」をまちづくりに活用することに着目

境港市は鳥取県西部に位置し、三方を海に囲まれた港湾都市である。また、「ゲゲゲの鬼太郎」の著者水木しげる氏の出身地としても有名であり、境港駅から800mの間に妖怪ブロンズ像が並ぶ「水木しげるロード」や「水木しげる記念館」をはじめとして、まちの至るところで妖怪をモチーフとしたまちづくりが進められている。

現在では、観光協会の様々なアイデア、催しなどとともに、商店街の各店舗が独自に創意工夫し、どこにでもある土産店ではなく、妖怪と共存した商品づくりや店舗づくりに取り組んでおり、独自の賑わいが生まれている。

「妖怪」は一見すると特殊な資源であると思われるが、「妖怪は民話や伝承が基になっているものであり、子どもたちには想像力を、大人たちにはノスタルジーをかき立てる存在」と梶田氏は指摘する。一般には「目に見えないもの」として認識されている妖怪が、境港に来ればいろいろな形で触れ、楽しむことができるという点も重要なポイントなのである。

(取り組み概要)

斬新な発想、企画の連発、メディアの活用

境港市観光協会の観光まちづくりの大きな特色の一つが「アイデアと企画の連発」である。ある一つの企画を実行する時は、それに付随した企画も大小こだわらずに実行し、賑わいを生み出して相乗効果を狙う。梶田氏が「実現させないと意味がない」と語るように、実行力のある取り組みが現在の境港市の賑わいを支えている。

新しい企画を情報発信する際は、新聞社、テレビ、雑誌など40社程度にプレスリリースし、報道された場合は「広告宣伝費」として換算している。平成16年当時1億円だった広告宣伝費は平成22年には30億円程度と換算された。「メディアを活用するということは『この間、新聞に出ていたね』という程度の意識ではいけない」と梶田氏が語る。広告宣伝費に換算することでメディア活用への意識を高めているのである。



商店街には妖怪神社が建立されている



水木しげるのロードでは至る所から妖怪が顔をだす

地域の課題

ハード・ソフトのアイデアを実現する仕組みづくり

「妖怪のまち」の賑わいを広げ、継続させる

ソリューション

企画を実現するスピード感と財源確保のアイデア【スポンサー募集によるハード整備など】

商店街を巡る仕組みづくり、飽きさせない工夫【妖怪ガイドブック、スタンプラリーなど】

(地域資源の発掘と活用術①)

企画を実現したスピード感と財源確保のアイデア

境港駅から800m続く「水木しげるロード」には「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪たちのブロンズ像が並ぶ。このブロンズ像は境港市や民間事業者とともに、全国から公募したサポーターの出資によって建てられたものもある。ブロンズ像のスポンサーとなる「サポーター公募」という考え方に至った理由を梶田氏は「従来の観光協会が行政依存が強く、企画を実現するスピードが遅いと感じていた。企画の鮮度が落ちると効果も落ちるので、行政に頼りきることなく、自ら資金を集めようと思った」と話す。梶田氏がイタリア・ボンペイを訪れた際に、大浴場の遺跡の保存に資金を出しているスポンサーの名前があったことにヒントを得た。

水木しげるロードに設置する妖怪ブロンズ像のスポンサーは1体100万円を全国に公募し、当初の予想に反して申し込みが殺到した。その後も「妖怪街灯」「かっぱの泉」「鬼太郎フェリー」「妖怪トーテムポール」などでもスポンサーを公募し、妖怪のまちの観光まちづくりがスピード感を持って進められている。

(地域資源の発掘と活用術②)

妖怪ガイドブックとスタンプラリーで商店街が活性化

妖怪ガイドブックは、「水木しげるロード」の妖怪の紹介とスタンプラリーの台紙を兼ねた境港市観光協会の大ヒット商品である。「水木しげるロード」の商店街や店舗、「水木しげる記念館」などの観光施設の紹介に加え、妖怪ブロンズ像を巡るスタンプラリーの台紙を付けている。スタンプが埋まると「完走証」が発行されるため、「水木しげるロード」を中心に、商店街を巡る人々の流れを生み出している。大ヒット商品となった妖怪ガイドブックは、観光まちづくりのさらなる展開に活かされている。



まちの中では至る場所で「妖怪」を感じることができる



妖怪ガイドブックとスタンプラリーの仕掛けで商店街が賑わう

「水木しげるロード」ができるまで

(地域資源を観光事業に活かすまでのプロセス)

水木しげるロードの歴史は平成元年にさかのぼる。当時は竹下内閣によるふるさと創生構想の中、元来、境港は基幹産業である水産業に活気があった一方で、「文化不毛の地」とも呼ばれていた背景も踏まえ、様々な検討が重ねられていた。そうした検討の中、境港駅からさびれてしまった駅前商店街の間を「うるおいのある道」とし、道の両脇には境港市出身の水木しげる氏ゆかりの「妖怪」の設置が検討された。地域住民が「妖怪」という資源には難色を示したが、境港市の熱意が伝わり、紆余曲折を経て、平成5年に完成式が行われた。

(年表)

平成元年(1989年)	ふるさと創成構想の中、文化育成を主眼においたまちづくりの検討
平成5年(1993年)	水木しげるロード完成式(ブロンズ像23体)
平成15年(2003年)	水木しげる記念館開館
平成17年(2005年)	スポンサー全国公募の妖怪ブロンズ像設置
平成20年(2008年)	水木しげるロード設置以来の通算来客数1,000万人突破

(統計データ)

数字でみる「水木しげるロード」

